

1. 緑をまもり育て、未来へつなぐ「六甲山プロジェクト」

神戸のシンボルであり続けるためにも、民・学・産・行政が一丸となって森林の保全・育成に取り組みます。

■背景・趣旨

- 六甲山は神戸の緑の骨格であり、生態系ネットワークを形成するうえで重要な核となるとともに、神戸を特徴づける貴重な資源であり、都市景観やレクリエーションの場として市民はもちろんのこと内外に広く親しまれている。
- 1902年に始まった大規模な植林の取り組みにより禿山であった六甲山を緑で被うことに成功したが、森の手入れが十分に行き届かないため、一部で森林の荒廃が進んでいる。
- 六甲山の緑を、様々な樹種や樹齢の木で構成される多様で安定した質の高い森に育て、次世代に継承していくことは、現代の我々の責務となっている。



六甲山森林整備戦略（平成24年4月策定）
～「都市山」六甲山と人の暮らしとの新たな関わりづくり～

- 多様な主体との協働による森林の育成、活用
- 戦略的ゾーニングによる森林整備の推進
- 森の恵みに対する新しい価値の創造
- 新たな仕組みや技術の導入による持続可能な森づくり

最近の主な取組み

■森林環境譲与税を活用した森林整備計画の策定

- R1：森林環境譲与税を活用した森林整備計画を策定。
R2：管理不十分な森林や再整備が必要な森林の整備6ha、林道の修繕200mを実施。
発生材の利活用のために製材を行い、公共建築物工事に提供。
森林整備の担い手育成のために、事業者講習会を実施。



【事業者講習会】

■私有林・市有林の森林整備

私有林

- ・県民緑税や森林環境譲与税を活用し、H30～R2に約140haの森林整備を実施（調査のみ箇所含む）
- ・私有林整備を進めていくために、森林所有者、森林整備事業者、木材利用事業者、大学関係者、行政らとの研究会を実施

市有林

- ・石切道などハイキング道沿いの市有林約40haの整備を実施



【県民緑税事業による森林整備】



【森林環境譲与税による森林整備】



【森林所有者、木材事業者らとの研究会】



【市有林の整備】

■発生材の利活用

- ・これまで利用されていなかった、森林整備の際に発生する材を有効活用する。
- ・森林整備から発生する材の保管場所として、市が所管する休閑地にてストックヤードを整備した。
- ・スギヒノキの建築用材約100m³を搬出し、その一部を製材し、R3年度建設予定の公共建築物に利用する。

主な活用事例

- H30 六甲山ビジターセンター、兵庫県林業会館
R01 新長田合同庁舎
R02 六甲最高峰トイレ



【ストックヤード】



【搬出材】



【兵庫県林業会館】



【新長田合同庁舎】

■六甲最高峰トイレの建て替え

- ・H30 設計
- ・R1～2 トイレ建設
- ・R2 周辺整備

- 主な緒元 ・建築面積、318㎡。
・男子小4・大2、女子5、多目的トイレ1
- 特徴 ・六甲山材等を利用した外壁デザイン。
・浄化槽能力の増強（現状30人槽⇒192人槽）
・手洗い用水として雨水利用 など



■ハイキング道の整備

六甲山や摩耶山周辺の主要なハイキング道について、階段や木橋の改修など歩行空間の整備や、案内板や道標の更新・多言語化を進めている。

- ・H30 歩行空間の整備（黒岩尾根など）、案内板等の更新・多言語化（六甲山上地区、再度公園～新神戸）
- ・R1 歩行空間の整備（トウソクイカなど）、案内板等の更新・多言語化（六甲山上地区、大師道など）
- ・R2 歩行空間整備（上野道など）、案内板等の更新・多言語化（六甲山上地区、上野道など）